

統合的学習に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



VALUE ルーブリックは、全米の大学を代表する専門教職員が、学習の成果に関する各大学のルーブリックや関連文書を調査し、教職員からのフィードバックを参考にして作成されたものである。このルーブリックは、段階的達成レベルを示す能力指標により、各学習成果の原則的な基準を示すものである。このルーブリックは、各大学が学生の学習を評価し考察する目的で使用されるものであり、成績をつけるために使用するものではない。この 15 の VALUE ルーブリックに示された学生に期待される能力に関しては、各大学、専門分野、コースに応じて、それぞれの解釈が可能である。VALUE ルーブリックは、学生の成果に関し共通の手段と理解を共有することで、すべての学部レベルの機関での学生の学習を、一つの基本的な期待レベルの枠組みの中で位置づけるためのものである。

定義

統合的学習とは、複数の考えや経験を単純に結びつけることから、大学内外の新しい複合的な状況にこれまでの学びを統合し、転移することまでを含む、正課科目や平行カリキュラムを通して学生が身につける理解と素質を指す。

概要

いくつかの講座で、長い時間にわたり、また大学生活と地域生活を通して、学生が学びを統合する能力を身につけるよう教育することは、高等教育の最も重要な目標及び課題の一つである。学生は、最初の段階ではこれまでの学びを授業での新しい学びに結び付け、後に、各専門分野の相当量の知識が基盤となるが、統合的学習は学問的な境界を超える。実際、学習者が様々な分野の知識や探求の様式を必要とする、シナリオのない、十分に広範囲な現実の問題に取り組んだ際に、複数の解決法や様々な視点が有効に生きてくる場面で、体験を通して統合的学びはしばしば起こる。また、統合的学習には学習者の内的変化も含まれる。このような、自信を持った生涯学習者としての成長を示すような内的変化は、自身の知的能力を順応させる力、広い範囲の様々な状況に対して貢献する力、また、個別の目的、価値観や倫理観を、理解し発展する力を含む。学生の統合的学習能力を育てることは、今日のグローバル社会における、学生の個人としての成功、及び社会的責任や市民参加の実践にとって重要である。学生は今、急速に変化し、益々繋がりが密接になりつつある世界に直面しており、学生にとって統合的学習は、もはやプラスになるというより、必要なものになりつつある。

統合的学習はものごとを関連付けることであるため、学生が実践に関する意味合いを提示することを求められない限りは、調査レポートや、学問的プロジェクト等、従来の学問的成果物には、この学びは顕著に表れにくいかもしれない。しかし、このような関連付けは、反省や、自己評価や、全ての創造的取り組みにおいてたびたび見られる。統合的な課題は、講座間の学びを促したり、講座を経験に基づく学習活動に結びつけることで、学びを促す。統合的学習の証拠は、そのような成果物を含む数種類の課題や一連の課題から得られる。学生がこれまで授業を通して得た学びを、その他の学習体験、課外活動や学習活動に関連する実生活で遭遇する状況に結び付けている証拠を、教員が探すことが望ましい。学生は統合的学習を通して、これまでの授業内外で得た全ての経験を結集させるため、正規の授業と、正規授業外の学びや潜在的な学びの間に存在する人工的な境界を超えることができる。その関係性や学びの源を問わず、統合的学習は理解を深めるために、理論と実践を関連付けることで築き上げるものである。

そのような関連付けの能力や理解を育む課題には、例えば、生物学・経済学・歴史学のトピックに着目する作文レポート、重要な問題への数学的ツールの応用及びその数学的な処理の予測される結果や制約に関する分析の記述を含む数学の課題、特定の絵画と小説との間の美意識的関連性を提

統合的学習に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



示す美術史プレゼンテーション等が含まれよう。この点においては、いくつかの専攻科目（異なった学問分野にまたがる専攻や、問題解決型の専門分野等）は、統合的学習を本質的にもたらし、結果として、このような成果を提示する課題や一連の課題を提供するようである。しかし、広範囲で広くコンセンサスを得た知識（会計学、工学、化学等）は、人文科学において自己反省において顕著に見られる、複合的で統合的な構造（倫理的ジレンマや社会的意識等）を含むが、それらは個々の業績に内在しており、顕著には表れないかもしれない。このような課題や一連の課題を作成する重要なポイントは、学生が自己の学習を評価することをサポートし、また、学生が卒業後に自分の人生や、仕事や、市民生活における課題に自己の統合的能力を使うことができるということの証となるような成果物や反省の記述、フィードバックを含む構造を作ることである。

用語

下記は、このルーブリックにのみ適用される用語と概念の定義である。

学問的知識	専門分野学習、学問的学習や教科書等学習のための本・文書からの学び
内容	課題や一連の課題で伝えられる情報
関係性	学生が学習成果を提示する実際の状況、あるいは状況のシミュレーション
併行カリキュラム	正規授業に追加して、授業と平行して行われる学習（学生自治会、地域社会への奉仕活動、寮の活動、学生組織等）
経験	職場、奉仕活動学習の場、インターンシップ先等、正規の授業外で行われる学習
形式	選択した特定の課題や一連の課題（研究レポート、PowerPoint、録画したビデオ等）から、選択したポートフォリオの構成要素まで、情報と証拠が提示されている外的な枠組み
パフォーマンス	知っていることと、何かを行うこと（絵を描く、実験的なデザイン問題を解決する、企業用の広報戦略を立てる等）を一つにする動的で持続的な行為。パフォーマンスは学習の観察を可能にする。
反省	その意味と結果を探求するために、パフォーマンスを考察するというメタ認知行為
自己評価	明言された、あるいは言外の期待に基づく、パフォーマンスの記述や解釈、及び判定に加え、今後の学びに関する計画

統合的学習に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



定義

統合的学習とは、複数の考えや経験を単純に結びつけることから、大学内外の新しい複合的な状況にこれまでの学びを統合し、転移することまでを含む、正課科目にまたがって、また、正課併行活動を通して学生が身につける理解と素質を指す。

単独の課題、または複数の課題を統合して、ベンチマーク（基準 1）に達しない場合は、0点と採点することを推奨する。

	最終基準	中間基準		ベンチマーク
	4	3	2	1
経験への関連付け 学問的知識を適切な経験に結びつける	学問分野の理解を深めるため、また、自己の視野を広げるために、正規授業外での経験間の関連付けを意味のある形で統合させる（人生経験と、インターンシップや海外旅行等の学問的経験を含む）。	学問分野の概念・理論・枠組みの理解を容易にするために、様々な関係性（家族生活、芸術的な活動への参加、市民参加活動、就労経験）からの人生経験例を効果的に選び発展させる。	違いと共通点の両方を推察するために、人生経験と学問的知識を比べ、自分の視点以外の視点を認識している。	関心があることと似通っている、あるいは関連していると見なしている教科書等の学習本・文書や考え方と、人生関係との関連性を識別する。
専門分野への関連付け 専門分野や視点をまたいだ関連付けを見出す（関連付けができる）	事例や、事実や、二つ以上の視点や学問分野の理論を組み合わせることにより、独自に、複数の部分を一体にする（統合させる）、または結論を出す。	独自に、二つ以上の視点や学問分野の理論を関連付ける。	促されれば、事例や事実、二つ以上の視点や学問分野の理論を関連付ける。	促されれば、事例や事実、二つ以上の視点や学問分野の理論を述べる。
転移 ある状況で身につけたスキル、能力、理論、方法論を新しい状況に順応させ、応用する	問題を解決するため、または、課題を探求するために、ある状況で身につけたスキル、能力、理論、方法論を独自の方法で、独力で新しい状況に順応させ、応用する。	問題を解決するため、または、課題を探求するために、ある状況で身につけたスキル、能力、理論、方法論を新しい状況に順応させ、応用する。	問題や課題の理解に貢献するために、ある状況で身につけたスキル、能力、理論、方法論を新しい状況で使用する。	ある状況で身につけたスキル、能力、理論、方法論を基本的な方法で新しい状況で使用する。
統合型コミュニケーション	課題の意味を深める形で、選んだ様式や、言葉の使い方、グラフ（またはその他の視覚表示）を用いて課題を完成させる。これにより言葉の使い方と意味、そして考えと表現の間の相互依存がはっきり見えている。	内容と形式を明白に関連付けるために、様式や、言葉の使い方、グラフ（またはその他の視覚表現）を選んで課題を完成させる。これにより目的と読み手・聴衆を認識していることが認められる。	伝えようとしていること（内容）と伝え方（形式）を基本的な形で関連付けるような様式や、言葉の使い方、グラフ（またはその他の視覚表現）を選んで課題を完成させる。	適切な形式を用いて課題を完了させる（つまりエッセーやポスター、ビデオ、PowerPoint によるプレゼンテーション等を完成させる）。

統合的学習に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



<p>反省と自己評価 過去の経験を発展させることで新しい、困難な分野に対応し、学習者としての自己意識の高まりを提示する（自己評価、反省、創造的学習成果物に表れ得る）</p>	<p>広範囲の様々な関係性をまたいで生ずる、将来の自分を描いている（そして、場合によっては過去の経験を発展させた計画を立てている）。</p>	<p>長期間にわたる自己の学習に生じた変化を評価し、複合的な関係性上の要素（曖昧さやリスクに取り組む、苛立ちに対処する、倫理的な枠組みを考慮する等）を認識する。</p>	<p>様々な関係性における（高まった自己認識を通して）効率を上げるための（特定のパフォーマンスや出来事における）強みや課題を明確に述べる。</p>	<p>一般的な成功と失敗の記述に使われる用語を用いて自己のパフォーマンスについて記述する。</p>
---	--	--	---	---